

授業改善のポイント

主体的に学習に取り組むためには、児童生徒が**学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったり**して自身の学びや変容を自覚できる場面を設定することが大切です。また、**対話**によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定することも大切です。更に、学びの深まりをつくりだすためには、「**児童生徒が考える場面と教師が教える場面**をどのように組み立てるか」という観点で授業改善を進めることが大切です。

単元(題材)づくりのポイント ~単元(題材)など内容や時間のまとまりを通して~

導入 (見通し)

何ができるようになるか
何を学ぶか
どのように学ぶか

単元(題材)の課題の明確化のポイント

- 資質・能力の3つの柱
- 知識及び技能の習得
 - 思考力・判断力・表現力等の育成
 - 学びに向かう力、人間性等の涵養

過去問の分析
(教科書へ過去問の貼付)

導入の工夫のポイント

- 学習意欲が高まるような教材との出合わせ方
- 学習の見通し(学習計画)
- 評価規準や評価方法の明確化と共有

展

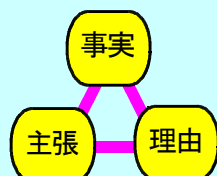
開

児童生徒が考える場面と教師が教える場面の組み立てのポイント

- 児童生徒が考える内容を、いつ、どのように扱うかを吟味する。
- 教師が教えるべき内容は、しっかり教える。

「学び合い」の設定

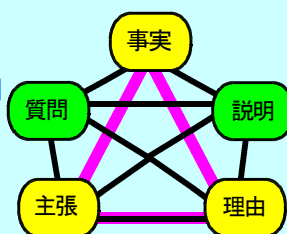
考えの記述のポイント



- 三角ロジックの活用
- 場の設定
- 考えが浮かばない児童生徒への対応
- ノート指導
- 情報の与え方の工夫

学び合いのポイント

- ペンタゴン・ロジックの活用
- 内容の明確化
- ペア・グループ活動の選択
- ルール・雰囲気づくり
- 児童生徒への問いの工夫



参考： 鹿児島大学 原田義則准教授 講演資料

個に応じた指導の充実のポイント

- 個別やグループ学習
- 振り返り(ダイヤモンド・サイクルの活用)
- 繰り返し学習
- 習熟の程度に応じた学習
- 補充的な学習、発展的な学習

良問(よか問等)の活用

※ 取り組んだ「よか問」等の児童生徒一人一人のファイル化(解けない問題等に付箋を貼る等の工夫)

終 末

単元(題材)のねらいの達成状況の確認のポイント

- 「よか問」等、具体的な問題に取り組ませ、他のデータと比較して捉える。
- 「よか問」等、解けない問題に付箋を付ける等して、粘り強く取り組ませる。

良問(よか問等)の活用

単元・題材導入時の振り返りのポイント

- 前時までの学習や生活経験を振り返り、どの知識・技能が活用できるのか、どの見方・考え方が活用できるのかを検討する。

単元・題材途中の振り返りのポイント

- 単元の1次・2次などの学習を振り返り、わかったこと・できるようになったこと、活用した見方・考え方を確かめる。

単元・題材を終えた振り返りのポイント

- 単元(題材)全体の学習を振り返り、以後の学習(生活場面)に活用できることやさらに学習したいことを考える。

見届け!

児童生徒は、既得の知識を覚えていますか。
前単元(題材)までに学習した技能はしっかりと身に付けていますか。

見届け!

児童生徒は、主体的で対話的な学びを進めていますか。
児童生徒は、よりよい見方・考え方を働かせていますか。

見届け!

児童生徒は、知識・技能を理解し、使えるようになっていますか。
また、学習方法や手順を理解し、活用できるようになっていますか。

三角ロジック

「主張」「事実」「理由」をしっかりとつなげて書く(話す)と相手によく伝わります。このことは、論理的思考の基礎となる考え方です。

- **主張** 私は・・・だと思ふ。
- **事実** (見たこと、聞いたこと、書いてあること)・・・は・・・である。(・・・となっている。)
- **理由** 私は、このことから・・・と考えたから。



ペンタゴン・ロジック

異なる立場の他者から「質問」をしてもらい、再度、自分の考えを「説明」することで、論理的思考力や表現力を高めていきます。

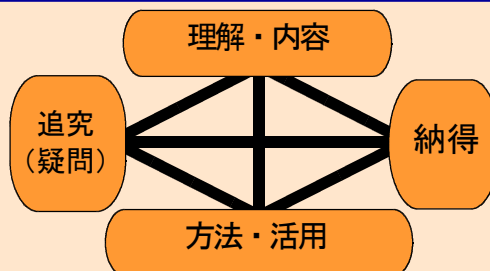
- **質問** (他の考え方、「理由」に対する反論)確かに・・・という意見もあるかもしれない。
- **説明** (「質問」に対する答え、「主張」へつながる)しかし、・・・だと考える。だからこそ・・・するべきだ。



「振り返り」を効果的に行うための学習ツール(例)

ダイヤモンド・サイクル

児童生徒が振り返りをするには、様々な方法が知られています。
ここでは、効果的に振り返るために「ダイヤモンド・サイクル」を紹介します。



参考： 鹿児島大学 原田義則准教授 講演資料

4つの観点の具体

「振り返り」の4つの観点を、下図のように示すことで、自分の学びの変容を自覚させることができます。

- **理解・内容** 分かったこと・思ったこと
分かったことやそれについて思ったことを書きます。
- **方法・活用** できるようになったこと・活かせること
できるようになったことやそれを活かせることについて書きます。
- **納得** 友達の考えに「なるほど」
友達の考えに「面白い考えだな」などと感じたことを書きます。また、その考えなどに触れ、自分の考え方がどのように変わったかも書きます。
- **追究(疑問)** もっと知りたいこと
新たな疑問などを書きます。

「振り返り」の目的は、児童生徒が自分自身の学習を振り返り、自分の変容(成長)を自覚するとともに、既習事項を以後(学習や生活)に積極的に生かしていくことにあります。

振り返りカードの実践例

書き方ルール	振り返りカード(1年(組) 名前)
どちらかで書く。 ○～です、～ます ○～である、～だ	① 振り返りカード ② 振り返りカード ③ 振り返りカード ④ 振り返りカード
整えて書く。 ○ 主語 ○ じゅつ語	⑤ 振り返りカード ⑥ 振り返りカード
文字数を意識して書く。	⑦ 振り返りカード ⑧ 振り返りカード
三角ロジックを使って書いてみよう	⑨ 振り返りカード ⑩ 振り返りカード
「主張」「事実」「理由」をしっかりとつなげて書く(話す)と相手によく伝わります。具体的な言葉は右の表のようになります。このことは、論理的思考の基礎となる考え方です。	⑪ 振り返りカード ⑫ 振り返りカード
三角ロジック ○ 主張 私は、・・・だと思ふ。 ○ 事実 (見たこと、聞いたこと、書いてあること)・・・は・・・である。(・・・となっている。) ○ 理由 私は、このことから・・・と考えたから	⑬ 振り返りカード ⑭ 振り返りカード

教師は、児童生徒の「振り返り」を自らの授業改善に役立てることが大切です。
したがって、児童生徒が、見通しと関連付けて、知識・技能だけではなく、見方・考え方についても振り返ることができるようにしましょう。

